



「2016年3月期第2四半期決算説明会」概要

11月6日(金)、(株)東京放送ホールディングスの「2016年3月期第2四半期決算説明会」が行われました。概要は以下のとおりです。

出席者：東京放送ホールディングス代表取締役社長	石原 俊爾
TBS テレビ代表取締役社長	武田 信二
東京放送ホールディングス常務取締役	藤田 徹也

参加者：およそ50名

〈決算ハイライトほか〉 石原社長

上期の連結決算は、売上高はわずかに前年に及ばなかったが、営業利益、経常利益ともに増益となった。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年の投資有価証券売却益の反動により減益。上期の業績予想と比べると、売上高はわずかに下振れしたが、利益面ではいずれも上振れする結果となった。連結の通期業績予想を修正したが、売上高は前回予想を下回る見通しだが、コストコントロールの継続により、営業利益、経常利益は前回予想と同額を予想している。

急務である「放送事業の強化」については、上期の視聴率はG帯4位、P帯3位と上昇。下期も、G帯、P帯とも10%台で推移しており、上昇傾向が続いている。今後も視聴率の上昇傾向を持続させるなどして、さらなる放送事業の強化につなげていく。

「総合メディア戦略の充実」については、「TBS オンデマンド無料見逃しキャンペーン」の名称を10月から「TBS FREE」に変更し、恒常的なサービスとして、より一層の認知と利用増につなげたい。同じく10月から、在京民放5社による「TVer」も始まった。テレビコンテンツへの接触の機会を増やすことにより、地上波でのリアルタイム視聴への還流を目指す。多メディア展開も積極的に行った。戦後70年企画『千の証言』は地上波で放送しきれなかった部分をBSで放送し、より深く掘り下げた。『世界陸上北京』でも、地上波、BS、CSに加え、配信も積極的に行った。

「グループ全体の収益力向上」については、スタイリングライフグループやグランマルシェといった「小売」を中心とした子会社の収益が大きく改善した。

「新規事業開発」については、TBS イノベーションパートナーズを通じたベンチャー企業への投資を積極的に続けている。ネット広告を手がける会社やスマホでの動画広告に優位性のある会社への出資により、テレビCMとネット広告、スマホ動画を組み合わせた新しい広告・営業手法を開発中。投資による協業の成果としては、ビッグデータ分析のリーディングカンパニーへの出資により、出資先が開発したソーシャルメディア分析ツールを用いて、視聴率の改善につながった事例も生まれた。

〈決算概況〉 藤田常務

上期の連結売上高は1,697億円で、7億円の減収。営業利益は58億円で、10億円の増益、経常利益は84億円で、19億円の増益。親会社株主に帰属する四半期純利益は前年の投資有価証券売却益の反動などにより、18億円減益の48億円となった。

TBSテレビ単体は、売上高が1,021億円で19億円の減収だったが、費用の抑制により営業利益は3億円増益の8億円となった。経常利益は受取配当金の増加などにより6億円増益の23億円。四半期純利益は前年の投資有価証券売却益の反動などにより、25億円減益の16億円。

TBSテレビの収入の内訳。タイム収入は、11億円減収の424億円。上期は『世界陸上北京』という大型スポーツ単発番組があったが、前年も『アジア大会』『ワールドカップサッカー』があり、これらスポーツ単発の売上げの規模の差で、前年に及ばなかった。スポット収入は、10億円減収の398億円。事業部門は催事・興行部門やライセンス部門が苦戦し、5000万円減収の119億円。不動産部門はほぼ前年並みだった。

主な関連会社の業績については、TBSラジオ&コミュニケーションズが6000万円の減収だったが、費用の抑制に努め増益を確保。BS-TBSはスポット、ショッピングが好調で4億円の増収、番組制作費などが増加したこともあり営業利益は1億円の減益となった。

〈視聴率状況〉 TBS テレビ 武田社長

上期の視聴率は、全日帯5.8%、G帯9.6%、P帯9.6%で、いずれも前年同期を上回ることができた。下期の視聴率は5週を終えたところでG帯、P帯ともに3位。特に日曜劇場『下町ロケット』は3話放送時点で平均17.2%と、たいへん高いご支持を頂いている。個別の番組では、TBSテレビ60周年特別企画 日曜劇場『天皇の料理番』が最終話17.7%、平均で14.9%という高いご支持を頂いた。この平均視聴率はG帯、P帯で放送された上期の連続ドラマではトップの数字。また、この作品は世界最大級のコンテンツ見本市 MIPCOM でバイヤーズアワード・グランプリを受賞し、東京ドラマアワードでも作品賞・連続ドラマ部門のグランプリに選ばれるなど、高い評価を頂いた。バラエティでは金曜日の「縦の流れ」が非常に好調な状態を維持しているほか、『マツコの知らない世界』『モニタリング』がともに好調で、『モニタリング』は10月から2時間でのレギュラー化に踏み切った。スポーツでは『世界陸上北京』がP帯平均12.1%で、地上波以外でもBS、CS、そしてネットとの連動など、当社のメディア戦略の充実の一つの例として、新しいスポーツコンテンツの楽しみ方を提供できたと思う。

下期の番組では、『下町ロケット』だけでなく、『キングオブコント』が15.0%、『学校へ行こう!2015』も3時間で17.8%という大きな成果をあげた。今後の番組では、今月8日に始まる『世界野球プレミア12』はWBCと並ぶ野球の世界大会で、当社では日本戦を中心に4試合を放送する予定。年末スペシャルドラマ『赤めだか』では、人気落語家の立川談春さんを二宮和也さんが演じ、師匠の談志さんをビートたけしさんが演じる豪華で楽しいキャスティングとなっている。海外事業では「SASUKE」の躍進が続く。本年度はイギリス、ベトナム、中国で新たに現地版が放送され、インドネシアでも準備が進む。また、アラビア語圏17カ国での放送権、フォーマット権双方の契約を結んだ。このほか、ベトナムとタイで、日本の魅力を紹介する番組の制作を決定するなど、積極的な海外展開を続けている。映画では、「ビリギャル」が興行収入28.3億円のヒットとなった。「図書館戦争 ザ・ラストミッション」は前作をしのぐヒットになりつつある。また、明日からは劇場版「MOZU」が公開となり、こちらも期待が高まっている。